



2026年3月期 決算報告

株式会社ニコン

2026年5月8日

- CFOの松本です。本日はお忙しい中、当社の説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

Nikon |

- 私からは、前期の決算報告、そして今期の見通しについてご説明します。

2026年3月期 通期：ポイント

	売上収益	営業利益	当期利益*
通期実績	6,771億円	▲1,124億円	▲860億円
前年比	▲381億円	▲1,148億円	▲921億円
前回予想比	+21億円	▲124億円	▲10億円

通期実績
前年比

- 売上収益は、主に精機事業での販売減少により全社で減収
- 営業利益は、デジタルマニュファクチャリング事業での固定資産の減損損失を含む一時費用**の発生、映像事業の製品ミックス変化により大きく減益

前回予想比
(2/5)

- 売上収益は、全社では概ね予想通り
- 営業利益は、映像事業でのMRMC社*** 株式譲渡関連費用や精機事業での固定資産減損損失等、計画外の一時的費用の発生により下振れ

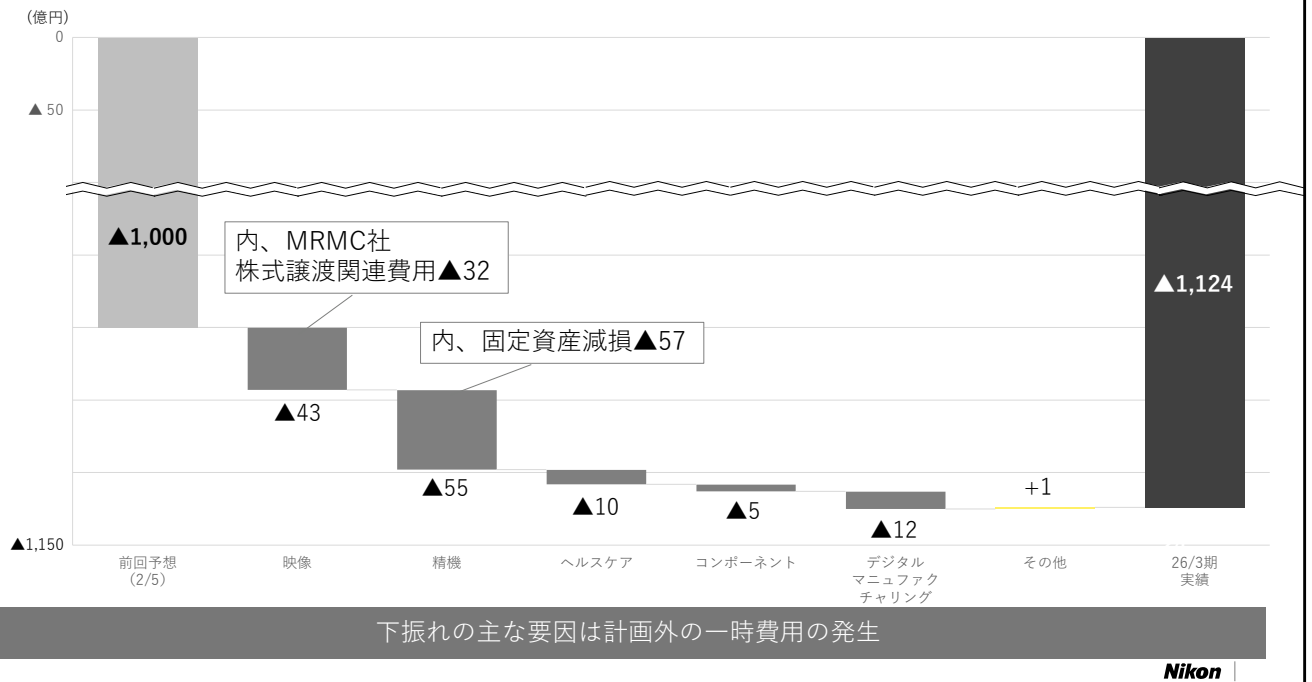
株主還元

- 期末配当金15円、年間配当金40円（前年比▲10円）

* 親会社の所有者に帰属する当期利益 ** 一時費用の詳細金額については29ページ参照
 *** Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売およびレンタル
 注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て

- 前期2026年3月期の売上収益は6,771億円、営業利益は1,124億円の赤字、当期利益は860億円の赤字となりました。
- 前年比では、主に精機事業での販売減少により381億円の減収となりました。営業利益は、デジタルマニュファクチャリング事業での減損損失906億円を含む一時費用の発生や映像事業の製品ミックス変化により、1,148億円の大幅減益となりました。
- 前期一時費用の詳細金額についてはスライド29をご参照下さい。
- また前回2月予想比では、売上収益は概ね予想通りでしたが、営業利益は、映像事業でのMRMC社の株式譲渡関連費用や、精機事業での減損損失など、計画外の一時的費用の発生により、124億円の減収となりました。
- なお、当期損失額は、金融損益、持分法投資利益、赤字に対する税効果計上などにより、営業損失額よりも縮小しました。
- 年間配当金は40円と前回予想と変わりません。

前回予想（2/5）からの営業利益変動



- この図は、2月5日の前回予想からの営業利益の変動要因を、セグメント別にあらわしたものです。
- ご覧の通り、全ての事業セグメントが下振れとなりましたが、映像、精機事業を中心に、一時費用を追加計上したことが下振れの主要因となります。

2026年3月期 通期：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 実績	前回予想 (2/5)	26年3月期 実績	前年比 増減額	前年比 増減率	前回予想比 増減額	前回予想比 増減率
売上収益	7,152	6,750	6,771	▲381	▲5.3%	+21	+0.3%
営業利益	24	▲1,000	▲1,124	▲1,148	-	▲124	-
営業利益率	0.3%	▲14.8%	▲16.6%	▲16.9P	-	▲1.8P	-
税引前利益	45	▲980	▲1,065	▲1,110	-	▲85	-
税引前利益率	0.6%	▲14.5%	▲15.7%	▲16.3P	-	▲1.2P	-
当期利益	61	▲850	▲860	▲921	-	▲10	-
当期利益率	0.9%	▲12.6%	▲12.7%	▲13.6P	-	▲0.1P	-
FCF	▲217	-	▲170	+47	-	-	-
ROE	0.9%	▲14.1%	▲14.1%	▲15.0P	-	+0.0P	-
EPS	17.86円	▲258.29円	▲261.57円	▲279.43円	-	▲3.28円	-
年間配当	50円	40円	40円	▲10円	-	±0円	-
為替：USドル	153円	149円	151円	売上収益への影響 +63		+73	
ユーロ	164円	173円	175円	営業利益への影響 ▲112		+17	

26年3月期における営業利益への関税影響は▲68億円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益 注：26年3月期のEPSの前提となる発行済株式数：約329.1百万株

Nikon

- スライド5の黄色い枠の中には、前期の主要係数を一覧でお示ししています。
- 表の中段のフリーキャッシュフローは、政策保有株および遊休不動産売却や事業譲渡などにより、前年比では47億円改善しました。
- なお、前期の営業利益への米国関税影響はマイナス68億円でした。

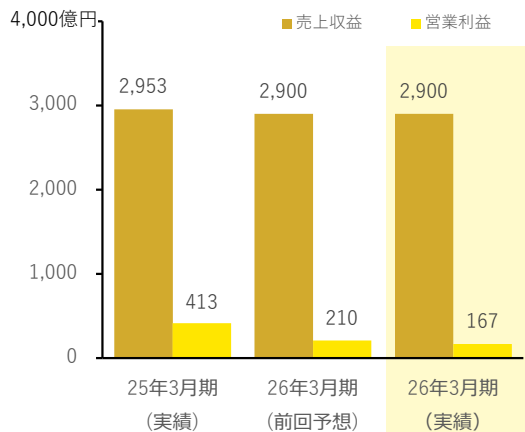
2026年3月期 通期：セグメント別業績

単位：億円		25年3月期	前回予想	26年3月期	前年比		前回予想比	
		実績	(2/5)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,953	2,900	2,900	▲53	▲1.8%	±0	+0.0%
	営業利益	413	210	167	▲246	▲59.5%	▲43	▲20.4%
	営業利益率	14.0%	7.2%	5.8%	▲8.2P		▲1.4P	
精機事業	売上収益	2,019	1,650	1,672	▲347	▲17.2%	+22	+1.4%
	営業利益	15	10	▲45	▲60	-	▲55	-
	営業利益率	0.8%	0.6%	▲2.7%	▲3.5P		▲3.3P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,120	1,119	▲45	▲3.9%	▲1	▲0.1%
	営業利益	67	25	15	▲52	▲76.8%	▲10	▲37.6%
	営業利益率	5.8%	2.2%	1.4%	▲4.4P		▲0.8P	
コンポーネント事業	売上収益	741	790	761	+20	+2.8%	▲29	▲3.6%
	営業利益	71	100	95	+24	+33.0%	▲5	▲4.5%
	営業利益率	9.7%	12.7%	12.5%	+2.8P		▲0.2P	
デジタル マニュファクチャリング 事業	売上収益	233	250	280	+47	+20.3%	+30	+12.4%
	営業利益	▲152	▲1,050	▲1,062	▲910	-	▲12	-
	営業利益率	▲65.2%	▲420.0%	▲378.4%	▲313.2P		+41.6P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	40	40	36	▲4	▲8.7%	▲4	▲8.4%
	営業利益	▲391	▲295	▲294	+97	-	+1	-
連結	売上収益	7,152	6,750	6,771	▲381	▲5.3%	+21	+0.3%
	営業利益	24	▲1,000	▲1,124	▲1,148	-	▲124	-
	営業利益率	0.3%	▲14.8%	▲16.6%	▲16.9P		▲1.8P	

Nikon |

- スライド6では、セグメント別実績の一覧を、前年比、前回予想比とともにお示ししています。詳細は、セグメントごとにご説明します。

2026年3月期 通期：映像事業



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)			
市場規模	672	670	704
ニコン	85	90	91
交換レンズ (万本)			
市場規模	1,042	1,000	1,067
ニコン	131	130	130

● 前回予想比：売上収益 ± 0 億円、営業利益 ▲43億円

● 前年比：売上収益 ▲53億円、営業利益 ▲246億円

【前回予想比】

- 売上収益は、概ね予想通り
- 営業利益は、MRMC社の株式譲渡契約に関連した一時費用 (32億円) に加え、研究開発費の増加等により下振れ

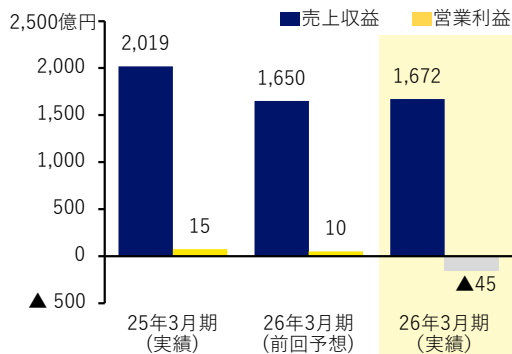
【前年比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は堅調に推移してきたが、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られる
- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」「Z50II」などを中心に販売数量は増加したものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、関税影響や上記一時費用の発生等により減収減益

Nikon |

- まず映像事業です。
- 前回予想比では、販売台数、売上収益ともに、概ね予想通りでしたが、営業利益は、MRMC社の株式譲渡契約に関連した一時費用32億円に加え、研究開発費の増加などにより、43億円の下方振れとなりました。
- 前年比では、レンズ交換式カメラ市場は堅調に推移したものの、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や、一部成長市場での一服感も見られます。
- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に、レンズ交換式カメラの販売台数は前年比6万台増の91万台、交換レンズは前年比1万本減の130万本となりました。
- 製品ミックスの変化およびプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、一時費用の発生などにより、前年比減収減益となりました。

2026年3月期 通期：精機事業



FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY24/25)	58	67	67
ニコン	38	32	32
半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)			
市場規模 (CY24/25)	625	570	570
ニコン	18/10	24/5	22/5

● 前回予想比：売上収益 +22億円、営業利益 ▲55億円

● 前年比：売上収益 ▲347億円、営業利益 ▲60億円

【前回予想比】

- 売上収益は、一部の半導体露光装置の据付が繰延べとなるも、サービス収入の増加等で上振れ
- 営業利益は、主に固定資産の減損損失（57億円）計上等により下振れ

【前年比】

- 売上収益は、FPD露光装置とArFドライおよび液浸露光装置の販売台数減少により減収
- 営業利益は、FPD露光装置が収益改善も、ArFドライおよび液浸露光装置の販売台数減少により減益

Nikon |

● スライド8は、精機事業です。

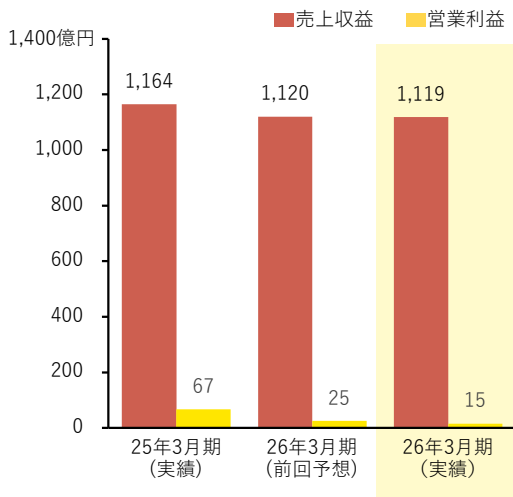
● 前回予想比では、一部の半導体装置の据付が今期に繰り延べとなりましたが、サービス収入の増加などで、売上収益は上振れました。

● 営業利益は、主に固定資産の減損損失57億円計上や棚卸資産評価損の追加計上などもあり、55億円下振れ、45億円の赤字となりました。

● 前年比では、FPD露光装置とArF露光装置の販売台数減少により減収となりました。営業利益は、FPD露光装置の収益は改善しましたが、ArF露光装置の販売台数減少により減益となりました。

● 前期は、期初計画に対して、高単価のArF露光装置の販売が下振れたことなどもあり、半導体装置事業は2年連続の減損損失計上となり、精機事業全体でも赤字となりました。今期は、大手半導体メーカー向けArF露光装置ビジネス拡大に注力し、半導体装置事業の黒字化を目指します。

2026年3月期 通期：ヘルスケア事業



- 前回予想比：売上収益 ▲1億円、営業利益 ▲10億円
- 前年比：売上収益 ▲45億円、営業利益 ▲52億円

【前回予想比】

- 売上収益は、概ね予想通り
- 営業利益は、棚卸資産廃棄・評価損の計上により下振れ

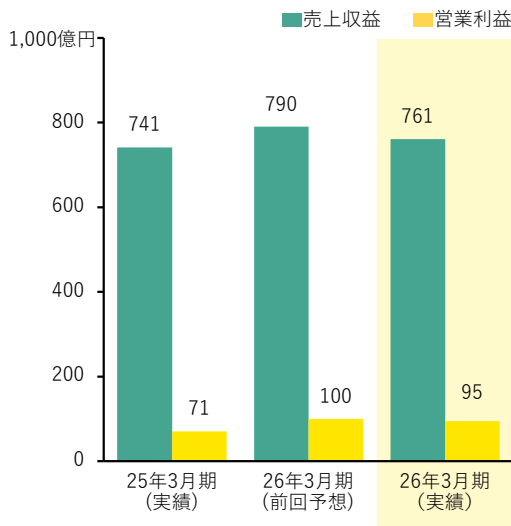
【前年比】

- ライフサイエンスは、主力の米国市場の停滞により減収。アイケアは、欧米を中心に拡販が進み増収。事業全体としては減収
- 営業利益は、減収に伴う減益に加え、関税影響やアイケア引当金計上により減益

Nikon |

- スライド9は、ヘルスケア事業です。
- 前回予想比では、売上収益は概ね予想通りでしたが、棚卸資産の廃棄・評価損計上により営業利益は下振れました。
- 前年比では、ライフサイエンスは主力の米国市場の停滞により減収、アイケアは欧米を中心に拡販が進み増収となりましたが、事業全体では減収となりました。
- 営業利益は、減収に伴う減益に加え、関税影響やアイケア引当金増額計上もあり、減益となりました。

2026年3月期 通期：コンポーネント事業



● 前回予想比：売上収益 ▲29億円、営業利益 ▲5億円

● 前年比：売上収益 +20億円、営業利益 +24億円

【前回予想比】

- 売上収益は、光学コンポーネント等の販売繰延べにより下振れ
- 営業利益は、Avonix社*の固定資産の減損損失（14億円）等の計上があったものの、製品ミックス良化や経費削減により下振れ幅が縮小

【前年比】

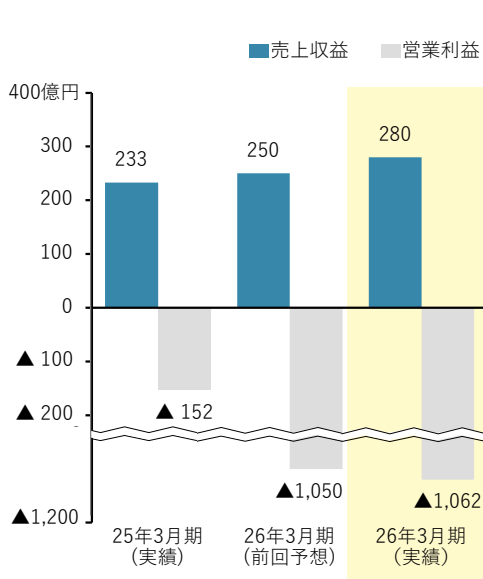
- 電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収増益
- 前年に実施したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革による収益性向上も増益に寄与

* Avonix Imaging, Inc.社：2023年に買収。主な事業内容は、X線/CT検査装置の開発、製造

Nikon |

- スライド10は、コンポーネント事業です。
- 前回予想比では、売上収益は光学コンポーネントなどの販売繰延べにより下振れました。
- 営業利益は、米国でX線CT検査装置の開発・製造を担当するAvonix社の減損損失14億円など計上したものの、製品ミックスの良化や経費削減により、5億円の下振れに留まりました。
- 前年比では、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収増益となりました。前年に実施した旧産機器事業での構造改革による収益性向上も増益に寄与しました。

2026年3月期 通期：デジタルマニュファクチャリング事業



● 前回予想比：売上収益 +30億円、営業利益 ▲12億円

● 前年比：売上収益 +47億円、営業利益 ▲910億円

【前回予想比】

- 売上収益は、防衛・宇宙領域での大型金属3Dプリンターの販売前倒しにより上振れ。四半期として過去最高売上を記録
- 営業利益は、増収に伴う増益効果はあるも、固定資産の除却損や棚卸資産廃棄・評価損等を計上したことに加え、為替影響もあり、下振れ

【前年比】

- 競争環境が激化する中、金属3Dプリンター市場全体は横ばいで推移する一方、防衛・宇宙領域を中心に引き続き大型金属3Dプリンター市場の需要が拡大
- SLM社の大型金属3Dプリンターの販売増に加え、為替効果もあり増収
- 固定資産の減損損失（906億円）や構造改革費用（6億円）を計上したことにより大幅減益

注：26年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費見込額：前回予想31億円、今回実績31億円

Nikon |

- セグメント別の最後は、デジタルマニュファクチャリング事業です。
- 前回予想比では、防衛・宇宙領域での大型金属3Dプリンターの販売前倒しにより、売上収益は上振れ、1月から3月の第4四半期の売上収益は、四半期としては過去最高を記録しました。
- 営業利益は、増収に伴う増益効果はあるものの、固定資産の除去損や棚卸資産の廃棄・評価損などを計上したことに加え、為替影響もあり、下振れとなりました。
- 前年比では、金属3Dプリンター市場全体は横ばいで推移する一方、防衛・宇宙領域を中心に、大型金属3Dプリンターの需要は引き続き拡大しました。
- SLM社の大型金属3Dプリンターの販売増加に加え、為替効果もあり、事業全体では前年比2割の増収となりました。営業利益は、906億円の減損損失や6億円の構造改革費用を計上したこともあり、前年比910億円の大幅な減益となりました。

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

Nikon |

- 続いて、今期の業績見通しをご説明します。

2027年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益
7,400億円

● 前年比：+629億円

- 半導体ArFドライおよび液浸露光装置やEUV関連コンポーネントなどの半導体関連ビジネスの拡大、ヘルスケア事業での米国アカデミア分野を中心とした市況回復、デジタルマニュファクチャリング事業での販売拡大、および為替効果により増収を見込む

営業利益
100億円

● 前年比：+1,224億円

- 前年に発生した一時損益**の剥落に加え、精機事業でのArFドライおよび液浸露光装置販売の増加に伴う増益やデジタルマニュファクチャリング事業の無形資産償却費の減少・構造改革効果により大幅な営業利益の改善を見込む

当期利益*
100億円

● 前年比：+960億円

1株当たり配当
20円

● 年間配当予想：20円（中間配当金10円、期末配当金10円）

● 配当性向予想：65.9%

為替前提

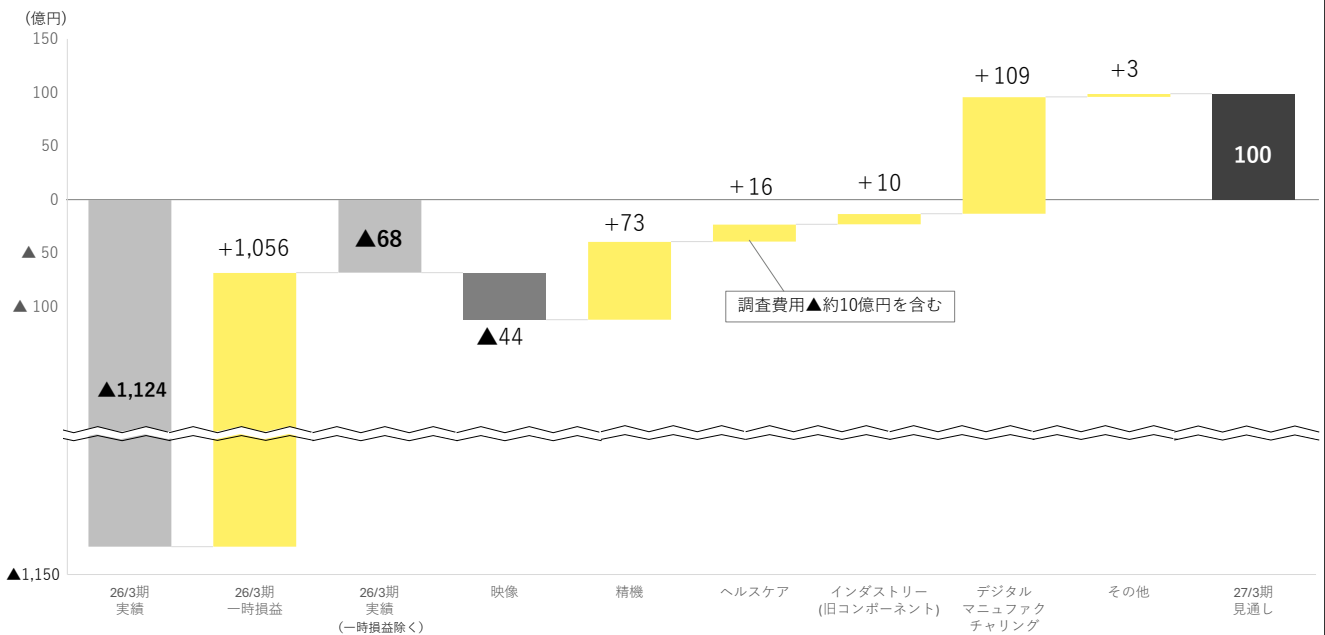
● USドル：155円、ユーロ：180円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

** 一時損益の詳細金額については29ページ参照

- 資料下に記載のとおり、為替前提は1ドル155円、1ユーロ180円としています。
- 今期2027年3月期の売上収益は7,400億円、営業利益は100億円、当期利益も100億円を見込みます。
- ArF露光装置やEUV関連コンポーネントなどの半導体関連ビジネスの拡大、ヘルスケア事業での米国アカデミア分野を中心とした市況回復、デジタルマニュファクチャリング事業での販売拡大、および為替効果により629億円の増収を見込みます。
- 営業利益は、前年に発生した一時損益合計1,056億円の剥落に加え、精機事業でのArF露光装置の販売増加に伴う増益や、デジタルマニュファクチャリング事業の無形資産償却費減少や構造改革効果により、1,224億円の大幅な利益改善を見込みます。
- なお1株当たり配当は年間20円とさせていただきます。配当性向は65.9%となります。

前期（2026年3月期）からの営業利益変動（一時損益を除く変動イメージ）



注: 27年3月期より「コンポーネント事業」から「インダストリー事業」へセグメント名を変更。
あわせて「株式会社ニコンビジョン」を「インダストリー事業」から「映像事業」へ移管。26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

Nikon |

- このスライドでは、前期からの営業利益変動をお示ししています。
- 一時損益1,056億円を除けば、前期の実質的な営業利益は68億円の赤字となりますが、今期はデジタルマニュファクチュアリング事業で109億円増、精機事業で73億円増と、この2事業が増益に大きく寄与する見込みです。一方、映像事業はメモリー価格高騰の影響もあり、44億円の減益となる見込みです。
- なお、今期より、コンポーネント事業をインダストリー事業にセグメント名を変更します。

2027年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	26年3月期 実績	27年3月期 見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上収益	6,771	7,400	+629	+9.3%
営業利益	▲1,124	100	+1,224	-
営業利益率	▲16.6%	1.4%	+18.0P	-
税引前利益	▲1,065	140	+1,205	-
税引前利益率	▲15.7%	1.9%	+17.6P	-
当期利益*	▲860	100	+960	-
当期利益率	▲12.7%	1.4%	+14.1P	-
ROE	▲14.1%	1.7%	+15.8P	-
EPS	▲261.57円	30.36円	+291.93円	-
年間配当	40円	20円	▲20円	-
為替：USドル	151円	155円	売上収益への予想影響 +137	
ユーロ	175円	180円	営業利益への予想影響 +33	

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注： 予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.4百万株

Nikon |

- スライド15をご覧ください。
- 今期業績見通しの主要計数を、前年比とともに、一覧でお示ししています。

2027年3月期 通期見通し：セグメント別

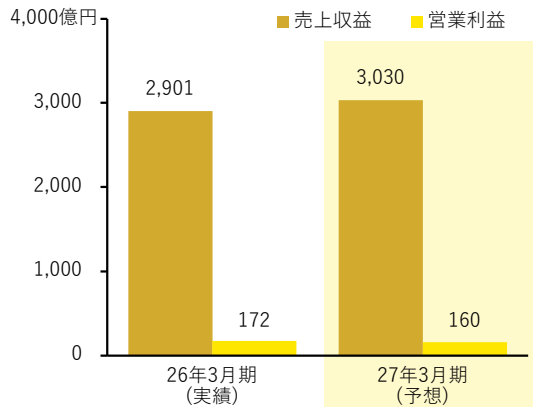
単位：億円		26年3月期 実績	27年3月期 見通し	前年比	
				増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,901	3,030	+129	+4.4%
	営業利益	172	160	▲12	▲7.1%
	営業利益率	5.9%	5.3%	▲0.6P	
精機事業	売上収益	1,672	1,880	+208	+12.4%
	営業利益	▲45	120	+165	-
	営業利益率	▲2.7%	6.4%	+9.1P	
ヘルスケア事業	売上収益	1,119	1,270	+151	+13.5%
	営業利益	15	60	+45	+284.3%
	営業利益率	1.4%	4.7%	+3.3P	
インダストリー事業 (旧コンポーネント事業)	売上収益	761	840	+79	+10.4%
	営業利益	90	120	+30	+33.3%
	営業利益率	11.8%	14.3%	+2.5P	
デジタル マニファクチャリング 事業	売上収益	280	340	+60	+21.0%
	営業利益	▲1,062	▲40	+1,022	-
	営業利益率	▲378.4%	▲11.8%	+366.6P	
その他 (含、全社費用等)	売上収益	36	40	+4	+9.2%
	営業利益	▲293	▲320	▲27	-
連結	売上収益	6,771	7,400	+629	+9.3%
	営業利益	▲1,124	100	+1,224	-
	営業利益率	▲16.6%	1.4%	+18.0P	

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

Nikon |

- スライド16では、セグメント別の通期予想の一覧を、前年比とともにお示ししています。

2027年3月期 通期見通し：映像事業



● 前年比：売上収益 +129億円、営業利益 ▲12億円

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込むも、消費マインドの変化や物流費・部材コストの変動等により不確実性が高まっている
- 売上収益は、ほぼ前年並みの販売数量を見込むなか、主に為替効果により増収
- 営業利益は、前年に計上した一時費用の剥落や為替効果がある一方、メモリー価格の高騰等もあり、減益を見込む

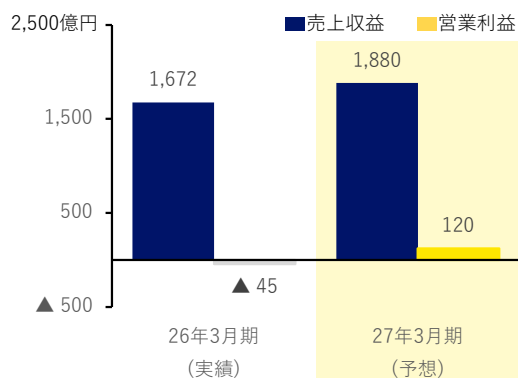
レンズ交換式デジタルカメラ (万台)		
市場規模	704	700
ニコン	91	90
交換レンズ (万本)		
市場規模	1,067	1,000
ニコン	130	130

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

Nikon |

- セグメントごとの詳細ですが、まず映像事業です。
- レンズ交換式カメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込み、今期の市場規模は700万台と前年並みを想定しています。一方で、消費マインドの変化や物流費・部材コストの変動などにより、短期的には不確実性が高まっております。
- このような中、当社の販売台数は、カメラ本体が90万台、レンズが130万本とほぼ前年並みを目指します。
- 売上収益は、主に為替効果により、前年比129億円の増収となる見通しです。
- 営業利益は、前年に計上した一時費用32億円の剥落や為替効果がある一方、メモリー価格の高騰などもあるため、前年比12億円減益の160億円を見込みます。

2027年3月期 通期見通し：精機事業



● 前年比：売上収益 +208億円、営業利益 +165億円

- 売上収益は、FPD露光装置販売台数減を半導体ArFドライおよび液浸露光装置販売台数増加により打ち返し、増収を見込む
- 営業利益は、前年の一時費用の剥落に加え、ArFドライおよび液浸露光装置の販売増加により、増益を見込む
- 昨年度に受注を開始したデジタル露光装置「DSP-100」は、初受注を獲得。新製品のArFドライ露光装置「NSR-S333F」は、初号機を出荷済み

FPD露光装置販売台数 (台)

市場規模 (CY25/26)	67	50
ニコン	32	27

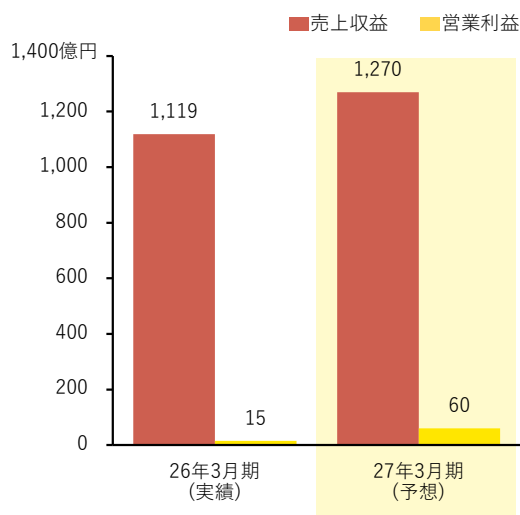
半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY25/26)	570	580
ニコン	22/5	23/6

Nikon |

- 精機事業についてご説明します。
- 事業全体の売上収益は、208億円増収の1,880億円となる見込みです。
- FPD露光装置は、中小型パネル向け6世代装置を中心に販売台数が前年の32台から27台に減少する一方、半導体露光装置は、前年の27台から29台に増加します。半導体は、i線やKrF装置は減少するものの、高単価のArF露光装置が7台増加する見込みです。
- 営業利益は、前年の一時費用の剥落に加え、ArF露光装置の販売増加が寄与し、165億円増益の120億円となる見込みです。
- なお、昨年度受注を開始したデジタル露光装置「DSP-100」は初受注を獲得しました。
- 同じく昨年度受注を開始した新製品のArFドライ露光装置「NSR-S333F」ですが、既に初号機を出荷しております。

2027年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



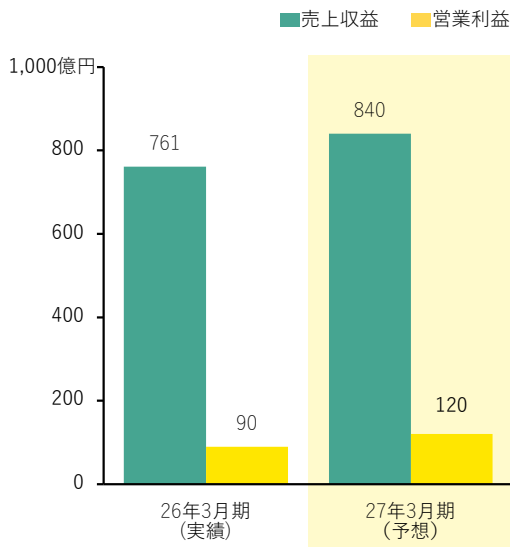
● 前年比：売上収益 +151億円、営業利益 +45億円

- ライフサイエンスは、米国でのアカデミア向け販売の下期回復に加え、アジア・中国での販売増加も見込み、増収
- アイケアは、欧米市場を中心に堅調に推移し、前年並みを見込む
- 細胞受託生産は、既存プロジェクトの拡大を見込み、増収
- 営業利益は、一時費用約10億円を見込むも、主に増収に伴う増益に加え、前年の一時費用の減少により増益を見込む

Nikon |

- スライド19は、ヘルスケア事業です。
- ライフサイエンスは、米国でのアカデミア向けの販売が下期に回復することに加え、アジア・中国での販売増加を見込むため、増収となる見込みです。
- アイケアは、欧米市場を中心に堅調に推移し、前年並みを見込みます。
- 細胞受託生産は、既存プロジェクトの拡大により増収を見込みます。
- 事業全体では、前年比151億円増収の見通しです。
- 営業利益は、アイケア関連で約10億円の一時費用を見込みますが、増収に伴う増益に加え、前年の一時費用減少により、前年比では45億円増益の見通しです。

2027年3月期 通期見通し：インダストリー事業（旧コンポーネント事業）



● 前年比：売上収益 +79億円、営業利益 +30億円

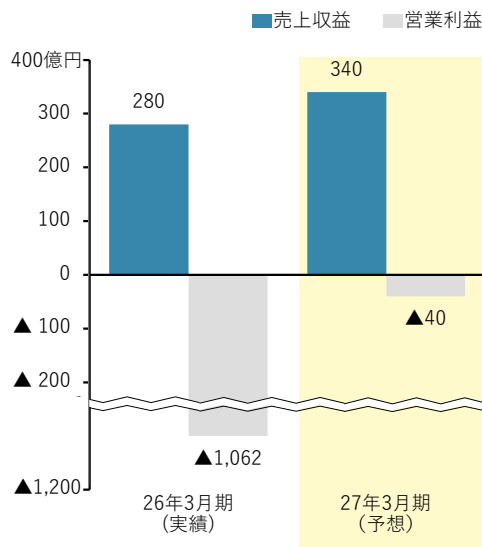
- 売上収益は、EUV関連コンポーネントやその他カスタム品の販売増加により増収
- 光学部品・光学コンポーネントやX線CT検査装置等の検査・測定機器分野は販売活動を強化し、堅調な推移を見込む
- FPDフォトマスク基板は前年からの反動減を見込む
- 営業利益は、販売活動強化や新製品発売に伴い費用等が増加するも、増収に伴う増益や前年に発生した一時費用の剥落により、増益を見込む

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

Nikon |

- スライド20は、インダストリー事業です。
- 売上収益は、EUV関連コンポーネントやその他カスタム品の販売増加により前年比79億円増収の見通しです。
- 光学部品・光学コンポーネントやX線CT検査装置などの検査・測定機器分野も販売活動を強化し、堅調な推移を見込みます。
- FPDフォトマスク基板は好調だった前年からの反動減を見込みます。
- 営業利益は、販売活動強化や新製品発売に伴う費用が増加しますが、増収に伴う増益や前年に発生した一時費用の剥落により、前年比30億円増益の見通しです。

2027年3月期 通期見通し：デジタルマニュファクチャリング事業



● 前年比：売上収益 +60億円、営業利益 +1,022億円

- 金属3Dプリンター市場は、防衛・宇宙領域を中心に引き続き大型金属3Dプリンターの需要が拡大する見通し
- SLM社の大型金属3Dプリンターの前期受注高は前年比で2割増加、26年1-3月期の受注総額は四半期としては過去最高を記録
- 売上収益は、防衛・宇宙領域を中心にSLM社の大型金属3Dプリンターの更なる販売拡大により増収を見込む
- 営業利益は、増収に伴う増益や前年の一時費用の剥落（913億円）に加え、無形資産の償却費減少（26億円）、構造改革効果の発現により大幅な赤字縮小を見込む
- SLM社は27年3月期の黒字化、事業全体では28年3月期の黒字化を目指す

注： SLM社買収に伴う無形資産償却費：31億円（26年3月期実績）、5億円（27年3月期見込）

Nikon |

- デジタルマニュファクチャリング事業についてご説明します。
- 大型金属3Dプリンターの需要は防衛・宇宙領域を中心に引き続き拡大する見込みです。
- このような中、SLM社の大型金属3Dプリンターの2025年度受注高は2024年度比2割増となりました。特に25年度第4四半期のSLM社受注高は四半期としては過去最高を記録しています。
- 事業全体の売上収益は、防衛・宇宙領域を中心にSLM社の大型金属3Dプリンターの更なる販売拡大により、前年比60億円増収の見通しです。
- 営業利益は、増収に伴う増益や前年の一時費用913億円の剥落に加え、無形資産償却費が26億円減少することや、構造改革効果により、1,022億円の大幅な赤字幅縮小となり、事業全体では40億円の赤字の見通しです。
- 今期はSLM社単体での黒字化、事業全体では28年3月期の黒字化を目指します。

クロージング

最後に、決算を総括しますと

- 前期決算は、デジタルマニュファクチャリング事業での減損損失など、1,056億円という多額の一時損益計上もあり、1,124億円の営業赤字となりました。一時損益を除いた実質的な営業利益も68億円の赤字となりました。
- 今期は、全ての事業セグメントで増収、メモリー価格高騰の影響を受ける映像以外の各事業セグメントで増益を目指します。
- 新たにスタートする中計の初年度となる今期は、中東情勢の悪化など、懸念すべき点もありますが、短期業績の着実な回復に向けて、総力を挙げて取り組んでいく所存です。
- ご清聴ありがとうございました。

參考資料

ニコンの事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主な事業、製品	製品例
映像事業	レンズ交換式デジタルカメラ 交換レンズ デジタルシネマカメラ	    <p>デジタルシネマカメラ [ZR] ミラーレスカメラ [Zf シルバー] NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S II [V-RAPTOR [XE] Z Mount]</p>
精機事業	FPD露光装置 半導体露光装置 デジタル露光装置 アライメントステーション	    <p>FPD露光装置 [FX-88SL] ArF液浸スキャナー [NSR-S636E] デジタル露光装置 [DSP-100] アライメントステーション [Litho Booster]</p>
ヘルスケア事業	生物顕微鏡 (ライフサイエンス) 網膜画像診断機器 (アイケア) 細胞受託生産	   <p>共焦点レーザー顕微鏡システム [AX/AX R] SS-OCT付き超広角走査型レーザー検眼鏡 [Silverstone] 細胞受託生産</p>
インダストリー事業 (旧コンポーネント事業)	EUV関連コンポーネント 光学部品、光学コンポーネント エンコーダ、測定・検査システム FPDフォトマスク基板	      <p>光学コンポーネント 多回転バッテリーレスアブソリュートエンコーダ [MAR-M700MFA] 画像測定システム [NEXIV VMF-K シリーズ] レーザーレーダ [APDIS MV5X] 大型検査用CT装置 [VOXLS 40 C 450] FPDフォトマスク基板</p>
デジタル マニュファク チャリング事業	金属3Dプリンター 光加工機 3Dスキャナー 材料加工受託	    <p>金属3Dプリンター [NXG 600E] 光加工機 [Lasermeister LM300A] 3Dスキャナー [Lasermeister SB100] 材料加工受託</p>

Nikon

2026年3月期 通期：財務ハイライト

単位：億円	23年3月期	24年3月期	25年3月期			26年3月期		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	6,281	7,172	3,327	3,825	7,152	3,129	3,642	6,771
営業利益	549	397	58	▲34	24	▲48	▲1,076	▲1,124
営業利益率	8.7%	5.5%	1.7%	▲0.9%	0.3%	▲1.5%	▲29.5%	▲16.6%
税引前利益	570	426	44	1	45	▲52	▲1,013	▲1,065
税引前利益率	9.1%	5.9%	1.3%	0.0%	0.6%	▲1.7%	▲27.8%	▲15.7%
当期利益*	449	325	29	32	61	53	▲913	▲860
当期利益率	7.2%	4.5%	0.9%	0.8%	0.9%	1.7%	▲25.1%	▲12.7%
FCF	▲1,121	▲106		▲217			▲170	
ROE	7.4%	5.0%		0.9%			▲14.1%	
EPS	125.46円	94.03円		17.86円			▲261.57円	
年間配当	45円	50円		50円			40円	
為替：USドル	135円	145円	153円	152円	153円	146円	156円	151円
ユーロ	141円	157円	166円	162円	164円	168円	182円	175円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

Nikon |

2026年3月期 通期：セグメント別実績

単位：億円		25年3月期			26年3月期			前年比		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	1,517	1,436	2,953	1,450	1,450	2,900	▲67	+14	▲53
	営業利益	288	125	413	151	16	167	▲137	▲109	▲246
精機事業	売上収益	815	1,204	2,019	698	974	1,672	▲117	▲230	▲347
	営業利益	9	6	15	30	▲75	▲45	+21	▲81	▲60
ヘルスケア事業	売上収益	551	613	1,164	512	607	1,119	▲39	▲6	▲45
	営業利益	13	54	67	3	12	15	▲10	▲42	▲52
コンポーネント事業	売上収益	304	437	741	351	410	761	+47	▲27	+20
	営業利益	14	57	71	52	43	95	+38	▲14	+24
デジタル マニュファクチャリング 事業	売上収益	117	116	233	98	182	280	▲19	+66	+47
	営業利益	▲64	▲88	▲152	▲89	▲973	▲1,062	▲25	▲885	▲910
その他	売上収益	20	20	40	18	18	36	▲2	▲2	▲4
	営業利益	6	23	29	▲5	19	14	▲11	▲4	▲15
全社費用等	営業利益	▲209	▲211	▲420	▲190	▲118	▲308	+19	+93	+112
	内、成長投資関連費用	▲99	▲105	▲204	▲84	▲94	▲178	+15	+11	+26
	内、本社管理部門費用	▲120	▲115	▲235	▲89	▲43	▲132	+31	+72	+103
	内、セグメント間消去	10	9	19	▲17	19	2	▲27	+10	▲17
連結	売上収益	3,327	3,825	7,152	3,129	3,642	6,771	▲198	▲183	▲381
	営業利益	58	▲34	24	▲48	▲1,076	▲1,124	▲106	▲1,042	▲1,148

2026年3月期 通期：セグメント別業績

単位：億円		25年3月期	前回予想	26年3月期	前年比		前回予想比	
		実績	(2/5)	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,953	2,900	2,900	▲53	▲1.8%	±0	+0.0%
	営業利益	413 (432)	210 -	167 (199)	▲246	▲59.5%	▲43	▲20.4%
精機事業	売上収益	2,019	1,650	1,672	▲374	▲17.2%	+22	+1.4%
	営業利益	15 (156)	10 (29)	▲45 (47)	▲60	-	▲55	-
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,120	1,119	▲45	▲3.9%	▲1	▲0.1%
	営業利益	67 (87)	25 (59)	15 (44)	▲52	▲76.8%	▲10	▲37.6%
コンポーネント事業	売上収益	741	790	761	+20	+2.8%	▲29	▲3.6%
	営業利益	71 (89)	100 -	95 (115)	+24	+33.0%	▲5	▲4.5%
デジタル マニュファクチャリング 事業	売上収益	233	250	280	+47	+20.3%	+30	+12.4%
	営業利益	▲152 -	▲1,050 (▲138)	▲1,062 (▲149)	▲910	-	▲12	-
その他 (含、全社費用等)	売上収益	40	40	36	▲4	▲8.7%	▲4	▲8.4%
	営業利益	▲391 (▲320)	▲295 (▲333)	▲294 (▲324)	+97	-	+1	-
連結	売上収益	7,152	6,750	6,771	▲381	▲5.3%	+21	+0.3%
	営業利益	24 (296)	▲1,000 (▲75)	▲1,124 (▲68)	▲1,148	-	▲124	-

注：営業利益の（ ）内数値は、一時損益を除いた値

Nikon |

2026年3月期 通期：セグメント別四半期実績

単位：億円

		26年3月期				
		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
映像事業	売上収益	800	650	840	610	2,900
	営業利益	110	41	58	▲42	167
精機事業	売上収益	-	-	-	(▲10)	(199)
	営業利益	338	360	348	626	1,672
ヘルスケア事業	売上収益	18	12	▲24	▲51	▲45
	営業利益	-	(▲9)	-	(62)	(47)
コンポーネント事業	売上収益	231	281	278	329	1,119
	営業利益	▲18	21	▲9	21	15
デジタル マニファクチャリング事業	売上収益	(▲13)	(25)	(9)	(22)	(44)
	営業利益	151	200	167	243	761
その他	売上収益	18	34	14	29	95
	営業利益	-	-	-	(49)	(115)
その他	売上収益	50	48	68	114	280
	営業利益	▲41	▲48	▲945	▲28	▲1,062
その他	売上収益	-	-	(▲39)	(▲22)	(▲149)
	営業利益	8	10	9	9	36
その他	売上収益	▲2	▲3	▲10	29	14
	営業利益	▲96	▲94	▲71	▲47	▲308
その他	売上収益	(▲90)	(▲89)	(▲70)	(▲90)	(▲338)
	営業利益	▲41	▲43	▲42	▲52	▲178
その他	内、成長投資関連費用	▲40	▲49	▲41	▲2	▲132
	内、本社管理部門費用	▲14	▲3	13	6	2
その他	内、セグメント間消去	1,581	1,548	1,710	1,932	6,771
	売上収益	▲11	▲37	▲988	▲88	▲1,124
その他	営業利益	(±0)	(▲48)	(▲63)	(42)	(▲68)
	営業利益					

注：営業利益の（ ）内数値は、一時損益を除いた値

Nikon |

2025年3月期 通期：セグメント別一時費用一覧

単位：億円	25年3月期					内容
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	
映像事業	▲5	-	-	▲14	▲19	Q1：RED社買収関連費用▲5 Q4：MRMC社*固定資産減損損失▲8、 特許関連費用▲6
精機事業	-	-	-	▲141	▲141	固定資産減損損失▲78、棚卸資産評価損▲50、 構造改革（サービス拠点最適化）▲12
ヘルスケア事業	▲5	▲4	▲4	▲7	▲20	アイケア調査費用など
コンポーネント事業	-	-	▲8	▲10	▲18	構造改革（旧産業機器事業の組織最適化）▲18
デジタル マニュファクチャリン グ事業	-	-	-	-	-	
その他 （含、全社費用等）	-	▲51	▲13	▲7	▲71	Q2：本社移転関連費用▲51 Q3・Q4：構造改革（拠点再編）▲18など
連結	▲10	▲55	▲26	▲181	▲272	

* Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売およびレンタル

Nikon |

2026年3月期 通期：セグメント別一時損益一覧

単位：億円	26年3月期					内容
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	
映像事業	-	-	-	▲32	▲32	MRMC社株式譲渡関連費用▲32
精機事業	-	+21	-	▲113	▲92	Q2：事業譲渡益+29及び構造改革（サービス拠点最適化）▲8 Q4：固定資産減損損失▲57、棚卸資産評価損▲55
ヘルスケア事業	▲5	▲4	▲18	▲1	▲29	Q1-Q4:アイケア調査費用など▲14 Q3:アイケア引当金▲14
コンポーネント事業	-	-	-	▲20	▲20	Avonix社*固定資産減損損失▲14、 構造改革費用▲6
デジタル マニファクチャリング事業	-	-	▲906	▲6	▲913	Q3：固定資産減損損失▲906 Q4：構造改革費用▲6
その他 (含、全社費用等)	▲6	▲5	▲1	+43	+30	Q1-Q3：拠点再編に伴う費用▲12 Q4：NCC社**固定資産減損損失▲6、 遊休地売却益+49
連結	▲11	+11	▲925	▲130	▲1,056	

* Avonix Imaging, Inc.社：2023年に買収。主な事業内容は、X線CT検査装置の開発、製造

** 株式会社ニコンクリエイツ（NCC）：主な事業内容は、次世代映像コンテンツの企画・撮影・制作

Nikon |

2027年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	26年3月期			27年3月期 見通し			前年比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	3,129	3,642	6,771	3,430	3,970	7,400	+301	+328	+629
営業利益	▲48	▲1,076	▲1,124	▲70	170	100	▲22	+1,246	+1,224
営業利益率	▲1.5%	▲29.5%	▲16.6%	▲2.0%	4.3%	1.4%	▲0.5P	+33.8P	+18.0P
税引前利益	▲52	▲1,013	▲1,065	▲50	190	140	+2	+1,203	+1,205
税引前利益率	▲1.7%	▲27.8%	▲15.7%	▲1.5%	4.8%	1.9%	+0.2P	+32.6P	+17.6P
当期利益*	53	▲913	▲860	▲30	130	100	▲83	+1,043	+960
当期利益率	1.7%	▲25.1%	▲12.7%	▲0.9%	3.3%	1.4%	▲2.6P	+28.4P	+14.1P
ROE		▲14.1%			1.7%			+15.8P	
EPS		▲261.57円			30.36円			+291.93円	
年間配当		40円			20円			▲20円	
為替：USドル	146円	156円	151円	155円	155円	155円	+9円	▲1円	+4円
ユーロ	168円	182円	175円	180円	180円	180円	+12円	▲2円	+5円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益
注： 予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.4百万株

Nikon |

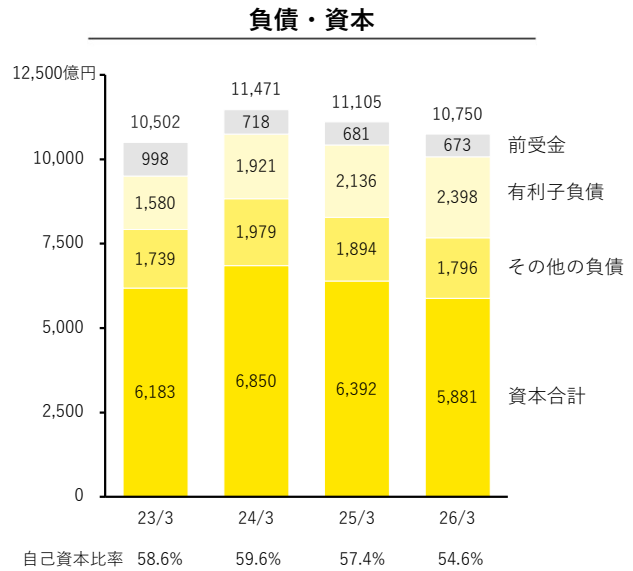
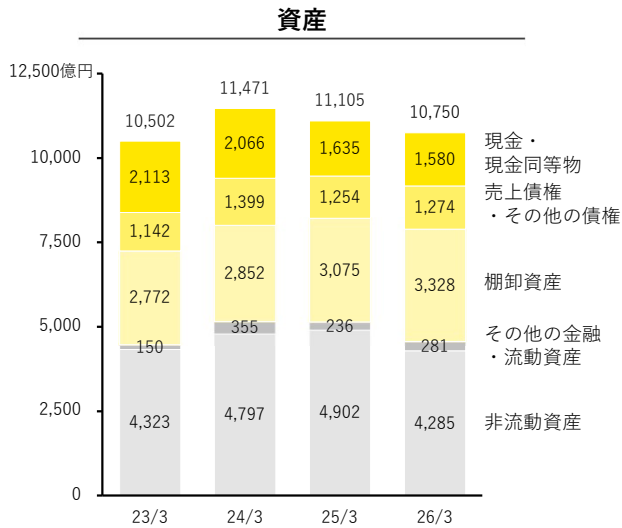
2027年3月期 通期見通し：セグメント別

単位：億円		26年3月期			27年3月期 見通し			前年比		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	1,450	1,451	2,901	1,430	1,600	3,030	▲20	+149	+129
	営業利益	154	18	172	75	85	160	▲79	+67	▲12
精機事業	売上収益	698	974	1,672	890	990	1,880	+192	+16	+208
	営業利益	30	▲75	▲45	25	95	120	▲5	+170	+165
ヘルスケア事業	売上収益	512	607	1,119	580	690	1,270	+68	+83	+151
	営業利益	3	12	15	0	60	60	▲3	+48	+45
インダストリー事業 (旧コンポーネント事業)	売上収益	350	411	761	340	500	840	▲10	+89	+79
	営業利益	49	41	90	25	95	120	▲24	+54	+30
デジタル マニュファクチャリング 事業	売上収益	98	182	280	170	170	340	+72	▲12	+60
	営業利益	▲89	▲973	▲1,062	▲25	▲15	▲40	+64	+958	+1,022
その他	売上収益	18	18	36	20	20	40	+2	+2	+4
	営業利益	▲5	19	14	▲10	30	20	▲5	+11	+6
全社費用等	営業利益	▲190	▲117	▲307	▲160	▲180	▲340	+30	▲63	▲33
	内、成長投資関連費用	▲84	▲94	▲178	▲75	▲80	▲155	+9	+14	+23
	内、本社管理部門費用	▲89	▲43	▲132	▲85	▲85	▲170	+4	▲42	▲38
	内、セグメント間消去	▲17	20	3	0	▲15	▲15	+17	▲35	▲18
連結	売上収益	3,129	3,642	6,771	3,430	3,970	7,400	+301	+328	+629
	営業利益	▲48	▲1,076	▲1,124	▲70	170	100	▲22	+1,246	+1,224

注：26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

Nikon |

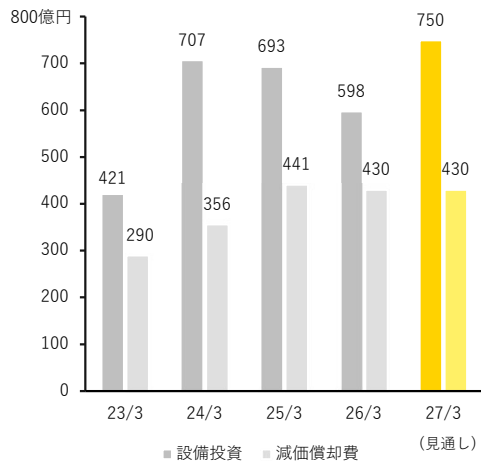
2026年3月期 通期：財政状態計算書



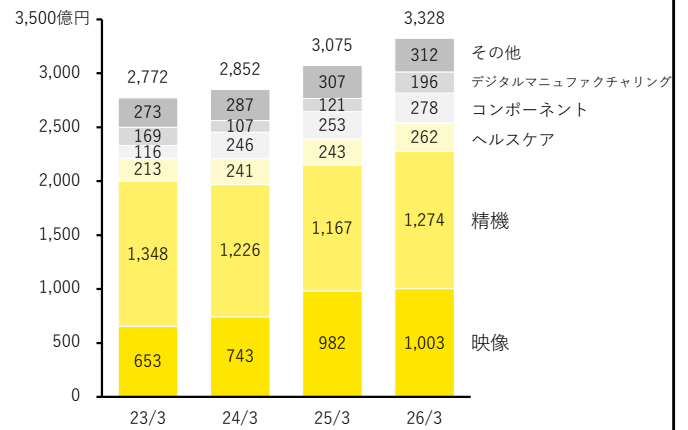
注: 現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示
 注: 自己資本比率 = 親会社所有者帰属持分比率

設備投資・減価償却費・棚卸資産

設備投資・減価償却費



棚卸資産

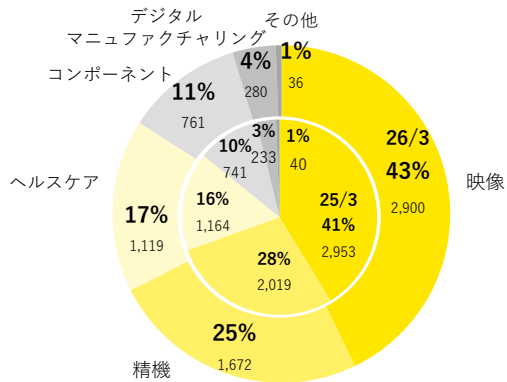


注: 「設備投資」 使用権資産を含む
 注: 「減価償却費」 使用権資産、企業結合により取得した有形固定資産の減価償却費や無形資産の償却費を含む

2026年3月期 通期：売上収益内訳

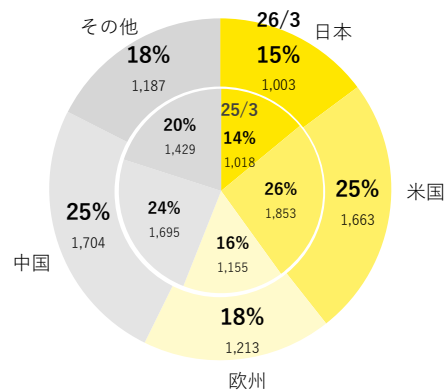
セグメント別内訳

単位：億円



地域別内訳

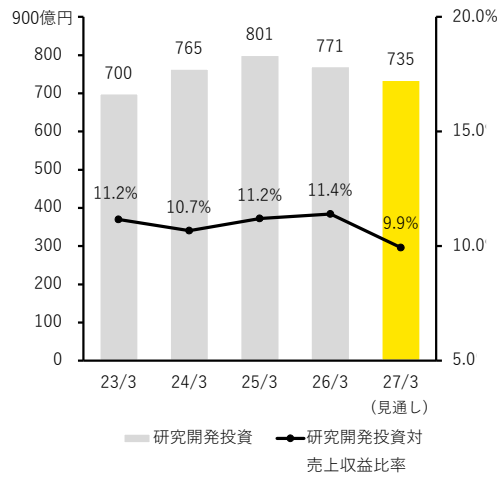
単位：億円



注：外円は「26年3月期 通期売上収益6,771億円」の内訳、内円は「25年3月期 通期売上収益7,152億円」の内訳を表示

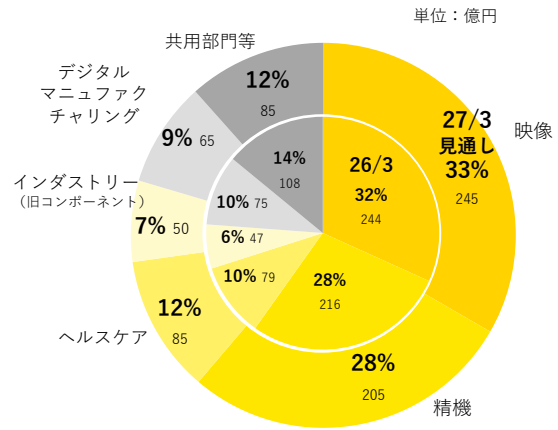
2027年3月期 通期見通し：研究開発投資

研究開発投資

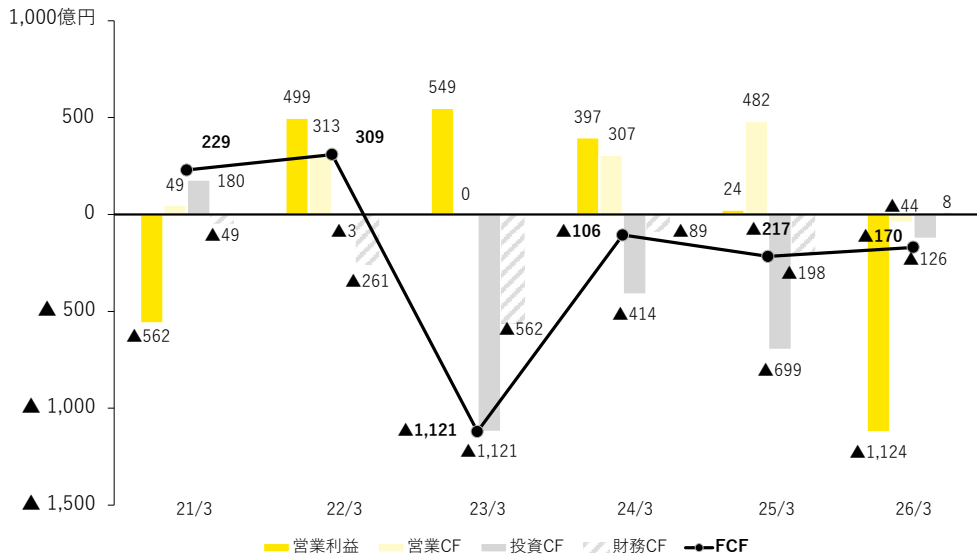


注: 「研究開発投資」 資産化された開発投資を含む
 注: 26年3月期実績はセグメント変更による組み換え後の数値

研究開発投資内訳



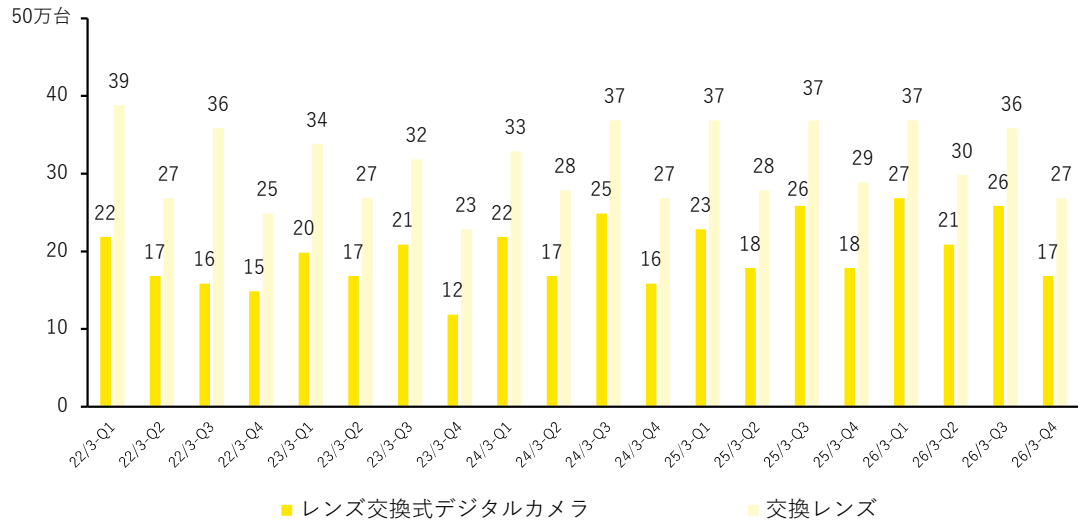
キャッシュフロー推移



注: FCF + 財務CF + 現金・現金同等物に係る換算差額 = 現金・現預金同等物期末残高増減

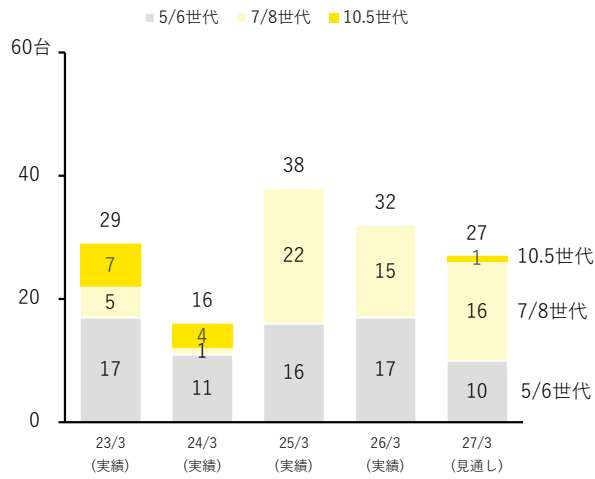
映像事業 販売台数

製品カテゴリー別内訳

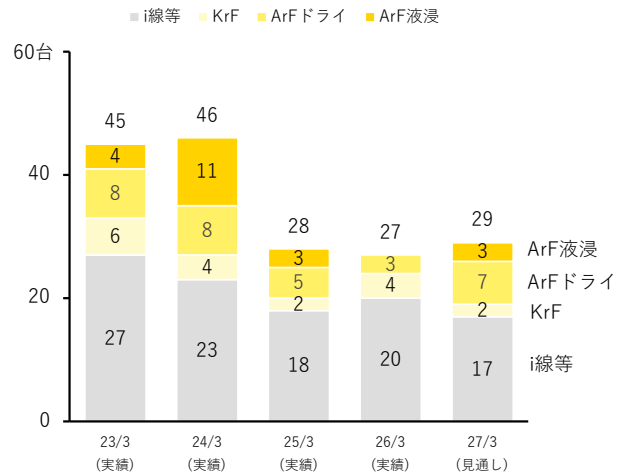


2027年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数

FPD露光装置世代別内訳



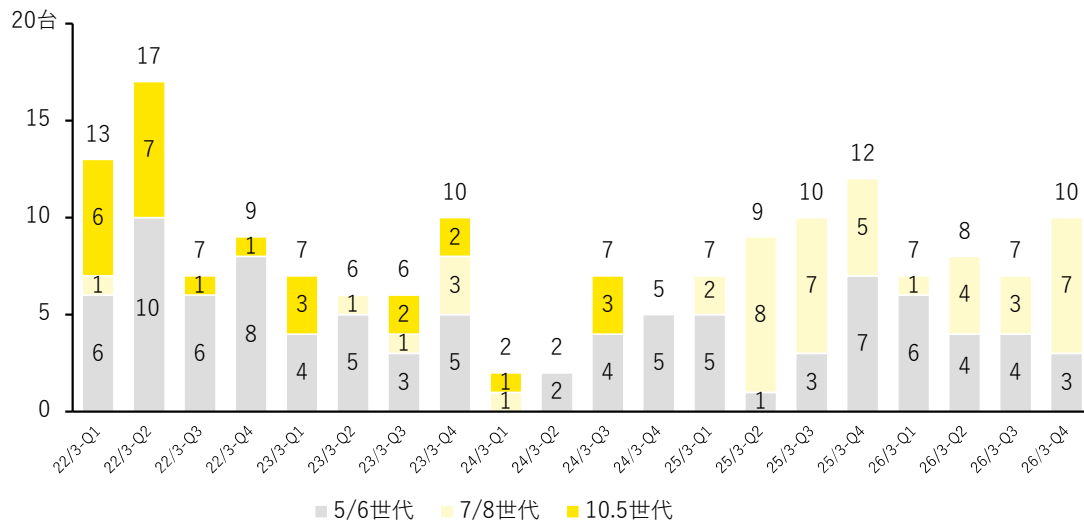
半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)



注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む
 注：半導体露光装置の新品の台数は、23年3月期は27台、24年3月期は31台、25年3月期は18台、26年3月期は22台、27年3月期は23台（予定）

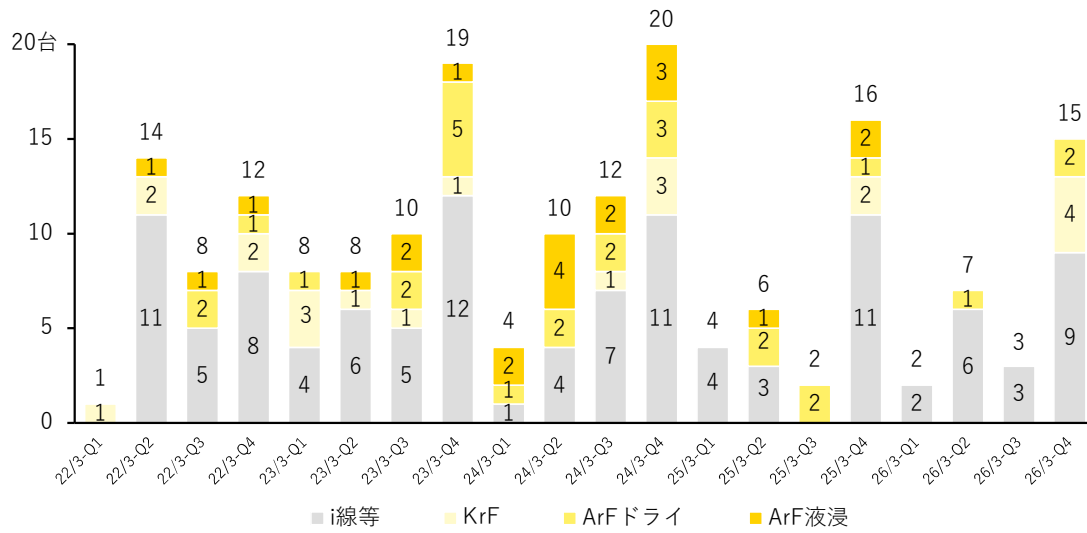
精機事業 販売台数

FPD露光装置世代別内訳



精機事業 販売台数

半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)



注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む

2027年3月期 通期見通し：為替の影響

	為替レート	1円の変動による影響額	
	27年3月期 前提	売上収益	営業利益
USドル	155円	約23億円	約5億円
ユーロ	180円	約7億円	約3億円

注：上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

Nikon |

将来予想に関する記述

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

